

◆先輩からのアドバイス◆

大学入試の小論文はレポート・卒論の基礎

今では修士論文を執筆する段階に至ってしまいましたが、小学校から高校時代まで、私は作文が大の苦手でした。そんな私の文章力を底上げしてくれたのが、大学入試の小論文です。

入試対策は、過去に出題された小論文を読み、要約し、そして問題を解くことの繰り返しでした。当時はさらに文章を書くことが嫌いになってしまうのではないだろうかと思ったほどです。しかし、大学に入ると、不思議と文章を書くことが苦痛ではなくなっていました。

実は、これには理由があったのです。

まず、入試問題という質の高い学術的な文章に多く触れることは、レポートや論文に用いられる語彙や表現を学ぶ良い機会だったのです。そして、それらを要約することは、文章の構成・展開の形式を身につけることに繋がっていました。大学でもレポートや卒論を控えた学生に論文の多読を勧めることがあります。その理由は、情報量の多い文献に比べ、論文は先行研究に焦点を絞って読むことができることに加え、論文独特の言い回しや論じ方を身につけることができるからだそうです。

レポートや卒論で躓いたとき、ちょっと小論文を思い出してみましょう。思わぬヒントが見つかるかもしれません。

(人文社会科学研究科 院生)